

千葉商科大学 プレスリリース

千葉商科大学ウェブメディア「MIRAI Times」で連載中!

消費者行動研究者が解説。 影響を考えてモノを選ぶ「エシカル消費」とは

千葉商科大学(学長:原科幸彦)は、「社会の未来を育てる」をコンセプトとしたウェブメディア「MIRAI Times」に、「時代を映す 新しい消費のカタチ～「ボランティア・シンプルシティ」と「エシカル消費」～」と題した連載記事(全5回)の第2弾を公開しました。

世の中で大量消費が繰り返されるなか、断捨離やミニマリスト、エシカルライフといった言葉が身近になり、人々のモノに対する向き合い方に変化が起こっています。消費者行動研究が専門の千葉商科大学商経学部の大平修司教授とともに、今注目を集める2つの新しい消費スタイルについて考察し、「消費」と「サステナビリティ」、そして「幸福感」を両立するためのヒントを探る本連載。第1弾は、モノを持たない「ボランティア・シンプルシティ(=ミニマリズム)」について紹介しました。

【連載第2弾】【Style2:影響を考えてモノを選ぶ】エシカル消費とは何か

連載第2弾では、生産・販売の過程で社会への負荷が少ない商品を選ぶ「エシカル消費」について、ムーブメントの経緯や背景、ミニマリズムとの関連性などに触れながら、その全体像をとらえていく。

「CSR元年」と言われる2003年以降、多くの企業が社会的課題の解決に乗り出し、こうした動きは今、日本のビジネスマーケットですっかり定着している。しかし、地球の持続的発展が叫ばれる現代において、企業だけでなく、私たち消費者も「モノを買うこと=それを作り、販売した企業へ一票を投じること」と理解し、人や社会に負荷の少ない商品を、責任を持って選ぶべきだと大平教授は主張する。

大平教授はエシカル消費を「購買行動」と「購買後行動」に分け分析。また、世界で高まるエシカルへの意識は、日本人の質素節約の風習がルーツにある日本のミニマリズムと同じだと語る。そして、このエシカルという考えのムーブメントと大規模自然災害の関連性についても解説する。

※記事本文をぜひご覧ください。

https://www.cuc.ac.jp/om_miraitimes/special/u0h4tu0000002jbl.html



大平修司(おおひら・しゅうじ)

商経学部教授。日本のボランティア・シンプルシティ研究の第一人者。専門はマーケティング、消費者行動論。著書に『消費者と社会的課題』(千倉書房)、『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』(NTT出版)など。普段から積極的に有機野菜や寄附つき商品、コートやジーンズは本当に気に入ったもの、長く使えるものを選ぶようにしている。

「MIRAI Times」 https://www.cuc.ac.jp/om_miraitimes/

千葉商科大学 MIRAI Times

検索

【報道関係者の皆様へ】「MIRAI Times」の記事テーマに関するご取材についてはお気軽にお問い合わせください。

学校法人千葉学園 経営企画部 戦略広報室 [Tel] 047-373-9968 [E-mail] p-info@cuc.ac.jp

CUC 千葉商科大学
Chiba University of Commerce

www.cuc.ac.jp